
小さきもの

k . かすみ

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

小さきもの

【Nコード】

N1365H

【作者名】

k・かすみ

【あらすじ】

私の約20年をかきます。つらかったけど、楽しい事もたくさんあった。よければ一緒にお供ください。

おさなき時代

私はかすみとして平成元年のある日に生まれた。

そのころある歌手が亡くなったというのでメディアは大騒ぎだったという。そんなことは知らずに私は一番最初の子供だったという事で大事に育てられた。

そして、2年後に弟が生まれ、私はお姉ちゃんと言う自覚を持ち始めた。その頃親に殴ったりものを投げられたりと怖い目にあい、いつの間にか私は親に逆らえなくなった。

しかし、私の親であるから構ってほしくて大泣きしていた。その度に殴られもつと大泣きをした。

そんな頃、私は保育園に行っていた。人見知りと言うことで友達が出来なかった。しかし、先生のおかげもあってか徐々に友達はできた。別にそこまでつまらない毎日を送ってた訳じゃなかった。

小学生になり保育園の友達ほとんどいなくなっていた。

保育園の時にはランドセルが輝いて見えて、勉強は憧れだった。しかし、現実には学校は行きたくないし、勉強はしたくもなかったし、先生の言ってることもよく分からないし、つまらなかった。

だからなのか、勉強も遅れて行った。挙げ句の果てに私は遊具から落ちて骨折をした。

元々遅れていた勉強も入院するというので、もつと遅れてしまった。そんな感じで、小学校生活過ごしていた訳だから次第に

「かすみは馬鹿」というのが定着されていた。そんな訳で私は散々な小学校生活だった。でも、私は投稿拒否になることはなかった。

それは、仮病を使うにもばれてしまったら親に殺され兼ねない。そして、雄一の友達ができただから。雄一の友達は小学校3年生で同じクラスになった。しかし、その時点では友達はクラスの女子の支配者みたいな奴の下にいて、その中に入れて貰う感じでもなく、私は一人ぼっちだった。

親がPTAとやらで、偶然友達の親と一緒に仲良くなり、私と友達の間も縮まり、友達になった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1365h/>

小さきもの

2010年12月29日02時01分発行